

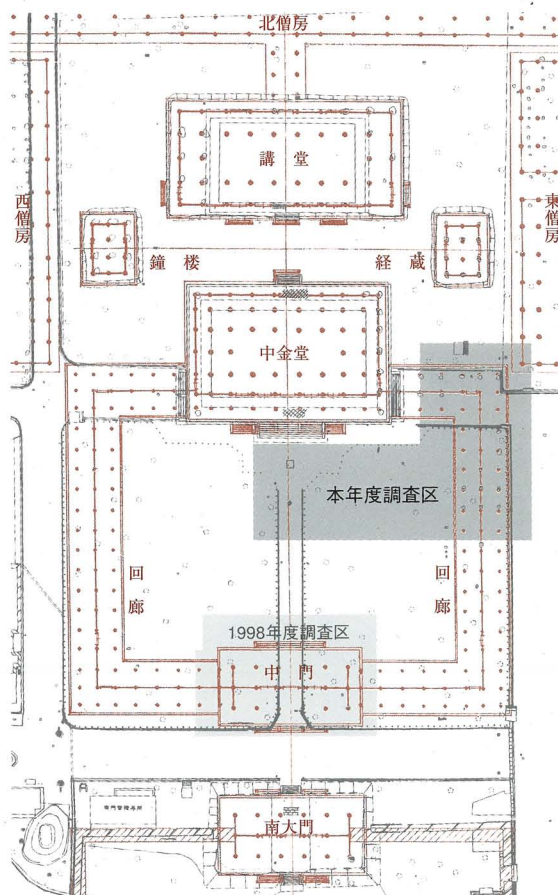
1 調査の経過と概要

本調査は、昨年度の中門跡に引き続き、興福寺境内第1期整備事業による第2年次にあたる。発掘区は東西55m×南北19mの長方形平面に東西22m×南北20mを突出させたL字型をなし、中金堂と中門をむすぶ回廊の北東隅と、中金堂前庭部、さらには東僧房^{*)}の南西端を含む面積約1,485㎡について調査をおこなった。調査区内には回廊の礎石が16石のこり、また、境内各建物に対する防災用配管の埋設にともなう事前発掘調査の成果（『興福寺防災施設工事・発掘調査報告書』1978）、さらには昨年度におこなった中門跡の調査成果などをみても、遺構の遺存状況は良好であろうと期待された。こうして1999年9月には、調査区内にある樹木の伐採やU字溝・間知石組の排水溝の除去をすませ、10月5日から作業員を投入した発掘調査を開始したのである。発掘面積は当初1,210㎡であったが、東面回廊棟通りで検出した凝灰岩製地覆石列SX7501の南延長部分の状況をあきらかにするため、また次年度以降の調査計画をも鑑みて、南辺部を5×55mにわたって拡張した。全体の調査経過は下表を参照されたい。遺構は、北面回廊および東面回廊の北方では現地直下の地山面で検出し、そのほかは、おおむね興福寺造営時と考えられる整地土上面で検出した。

第1表 調査経過

9月14日	現地打ち合わせ。発掘区設定。
9月16日	発掘前状況写真撮影。
9月24日	樹木伐採・抜根。排水溝除去（～25日）。
10月4日	現場設営・器材搬入。地区杭設定。
10月5日	東方から掘削開始。明治期築地SA7620・7621検出。
10月15日	北面回廊北雨落溝SD7516を検出。 東西溝SD7610を検出。
10月25日	東面回廊棟通りで凝灰岩製地覆石列SX7501を検出。
10月26日	中金堂の南で玉石敷きと燈籠台石を検出。
10月29日	調査区を南に5m（×55m）拡張。
11月9日	前庭部より金箔付き軒丸瓦出土。
11月16日	興福寺境内整備委員会開催。
11月19日	明治期築地写真撮影・実測（～24日）。 東西溝SD7600を検出。
11月25日	礎石建物SB7533を検出。
11月29日	東面回廊西側基壇地覆石・雨落溝を検出。
11月30日	明治期築地を掘削し下層遺構の検出。
12月2日	記者発表。東僧房南側基壇地覆石SX7591を検出。
12月4日	現地説明会。聴衆約1,000人。
12月11日	クレーンによる垂直写真撮影。
12月13日	地上写真撮影（～14日）。
12月15日	平面実測開始（～2000年1月17日）。
1月13日	前庭部の遺構再精査。断割（断面観察）開始。
1月19日	石敷き南に掘立柱東西塀SA7540を検出。
1月26日	礎石個々・前庭部の地上写真撮影。
2月2日	礎石の石質鑑定。凝灰岩地覆石に強化剤を塗布。
2月7日	記録ビデオの収録。
2月8日	遺跡養生のための砂まき開始。
2月10日	器材の撤収。
2月16日	図面の最終確認。調査終了。

*) 興福寺の僧房は講堂の東、西、北にたち、平安初期以降、それぞれ東室（中室）、西室、北室と呼称されてきたが、ここでは『興福寺流記』に記載される「東僧房（坊）」という名称を使うこととしたい。なお、『興福寺流記』には「僧坊」、「僧房」のいずれの文字もみえるが、ここでは「僧房」を用いた。



第1図 発掘調査位置図（1：1500）